心肺蘇生法に神様は必要か？

「『七人の神』って、お前……」

　俺は、妖精モドキが今言ったことに、目を丸くしていた。

「凄く言いづらいことを、敢えて言わせてもらうが……その神様達は、捕まっていたら殺されるんだろう？　なら、もう……」

　頭の中で、俺はさっき妖精モドキが言っていたことをもう一度思い出す。

　こいつの口ぶりから考えて、七人の神様がどうなっているのかは分かっていないのだと思う。もし神様達が捕まっていたら、探すとかそれ以前の問題だ。

　そして、ここからは俺の想像だが……妖精モドキと最後の神様がこっちの世界に逃げてきてから、既に一日が経過している。冥府とこっちの世界……仮に人間界と呼ぶとして、その二つの世界の時間の流れが同じとは限らないが、一応同じ流れだと考えると、奇襲されてから結構時間が経っている。確か妖精モドキは、『こっちの時間だと三日程前』と言っていたな。

　だとすると……

「瞬様、言いたいことは分かります。『神様が直々に戦いの前線に立っているとはいえ、無事だとはとても思えない』でしょう？」

　俺がそう思う前に、妖精モドキが先に口に出していた。

そしてその考えを否定するかのように、フフンと鼻を鳴らす。

「大丈夫ですよ。さっきは『もし捕まったら、殺されるでしょうね』なんて言いましたが、仮に捕まっていたとしても、すぐには殺されないと思います」

「……なるほど。そういうことか」

　自身と俺の胸を交互に指差した妖精モドキを見て、俺はこいつの言った意味を知る。

　要は、捕らえられた七人の神様は、この妖精モドキと残りの一人の神様を誘き出す人質に使われる可能性が高いと言いたいのだろう。

「あの混戦の最中、私達二人だけがこちらに逃げてきましたからね。タンタロスも、もし他の七人の神を全て捕らえ終わっているのであれば、今頃は私達を血眼になって探しているはずです」

　そう言いながら、妖精モドキは大仰に肩を竦めてみせる。なんだその欧米人並みのオーバーリアクションは。

「そして昨日私達はテュポーンに見つかった。仲間に連絡される前にあいつは倒しましたが、それでも奴が帰ってこなければ、タンタロスも気づくでしょう。私達がここの世界にいる、と。ならば、いずれまた誰かを送ってくるはずですよ」

「……ん？　また別の世界に逃げた、とは考えないのか？」

　俺がタンタロスの立場なら、そう考える。

　確かにこいつはこの世界に留まっているが、それは妖精モドキの『護衛対象』である『残り一人の神様』が『自魂蘇生術』とやらで俺の中にいるからであって、普通は、見つかった隠れ家に長々と滞在したりはしないだろう。俺が妖精モドキ達の立場なら、とっとと荷物を纏めて、また別の隠れ家を探す。

　そう思っていた俺だが……。

「『別の世界に逃げる』ですか……タンタロスがそう思ってくれるなら、どんなに楽なことですかね」

困ったように目を閉じ、その場でゆっくり自転を始めた妖精モドキはそう言った。

「この世界へは、別に私達の力とか能力とかで来たわけじゃないんですよ」

「……どういうことだ？」

　まるで意味が分からず、俺は眉を潜める。妖精モドキは自転を止めると、ちょっと俺から視線を外した。

　その様子を見るに、さっきまでの『答えられるけど隠してる、あるいは口止めされてて答えられない』というような感じではなく、どちらかというと『自分もよく知らないから答えられない』といった所だろう。

　案の定、妖精モドキは「私もよくは知らないのですが」と説明を始めた。

「冥府とこの世界とは、謂わば『ゲート』と呼ばれる通路で繋がっているんですよね。一応言っておきますが、『ゲート』ってなんだ？　とか聞かないでくださいよ。私達も、どうしてあんなものが冥府にあったのか、よく分かっていないんですから。知っているとすれば、恐らく捕まっているであろう『七人の神』の内の一人で、かつ瞬様の中にいる最後の神を加えた八人の中でも頂点に君臨する、冥府の支配者。ハデス様だけでしょう」

　俺が質問する前に、妖精モドキは先に答え……というか、『答えは知らない』と言ってきた。

　だがそんなことより、

「『ハデス』だとっ？　実在していたのか……っ？」

　まさかギリシャ神話に出てくる神様が実在していたことに、俺はかなり興奮していた。ギリシャ神話は、俺はあまり詳しくないが、名前くらいは流石に知っている。

　いや、『冥府』という単語を聞いていた時から、俺の頭の中にはすでに『ハデス』のイメージはあったし、それに相当する人物は『八人の神様』の中にもいるだろうな、とは思っていたのだが……よもや、名前までドンピシャで同じだとは思わなかったのだ。何とも厨二心が擽られる話である。

　そんな俺を、どこか変な人でも見るかのような、それでいて自身も好奇心が出てきたのか、興味深そうな目を向ける妖精モドキは、

「瞬様の世界にも、『ハデス』様はいらっしゃるのですか？」

　と聞いてきた。そう言えばこいつ、俺が『冥府』を知っていた時も、似たようなことを聞いてきたな。もしかすると、こいつの世界と、俺の世界の神話は、結構似ているのかもしれない。

　ここは一つ、俺の世界のギリシャ神話を妖精モドキに説明してやった方がよさそうだ。

　俺は頷くと、早速妖精モドキにギリシャ神話を――まあ、俺も詳しくは知らないので、ざっくりと概要だけにするつもりだが――話し始めた。